

さかもとてんざん こんでん ひ
阪本天山の墾田の碑

天山が墾田を称えた花崗岩

天竜川左岸側の塩田川と右岸側の太田切川の合流点であるこの地域一帯は、天竜川が常に流れを変え、手のつけられない荒れ地だったが、1789（寛政元）年の大洪水で一帯が干潟になった。大久保村の中村道民は、3年の歳月を費やし、川岸に三重の堤防を造り、岩を穿って暗渠で用水を通して干潟を開田した。高遠藩の阪本天山（江戸期の有名な砲術師範）は墾田事業に感嘆し、目立つこの巨石に記念の文を刻んで石碑とした。風化しやすい花崗岩に刻まれた碑文は、風化して大部分が判読できない。巨石は中央アルプスの頂上付近から氷河によってしらび平まで押し出され、土石流によって太田切川を下り、天竜川を横切ってここまで運ばれたものとする説がある。一方、駒ヶ根市誌によると、墾田の碑は周辺に存在する塩田花崗岩であり、北東の山麓から流下した石であるとされている。



中村道民の生家には、碑文の写しが保管されている。



管理の行き届いた碑



幅8m×奥行5m弱×高さ4m弱の巨石

information

□ アクセス
駒ヶ根ICから5km
車→10分

□ 所在地
駒ヶ根市東伊那



(国土地理院の数値地図25000地図画像)を使用



幅8m×奥行5m弱×高さ4m弱の巨石で、耕作地の奥に位置しているが、遠くからでも判別できるほどの大きさである。旧取水口も残っており、この周辺は石が草木で覆われてしまわないよう、地元の人により大切に管理されている。

1745（延享2）年高遠城下荒町の生まれで、「高遠藩学の祖」と言われる優れた学者であり、砲術の師範としても高名であった。